

## 第2章 高齢者を取り巻く状況

### 1 人口等の動向

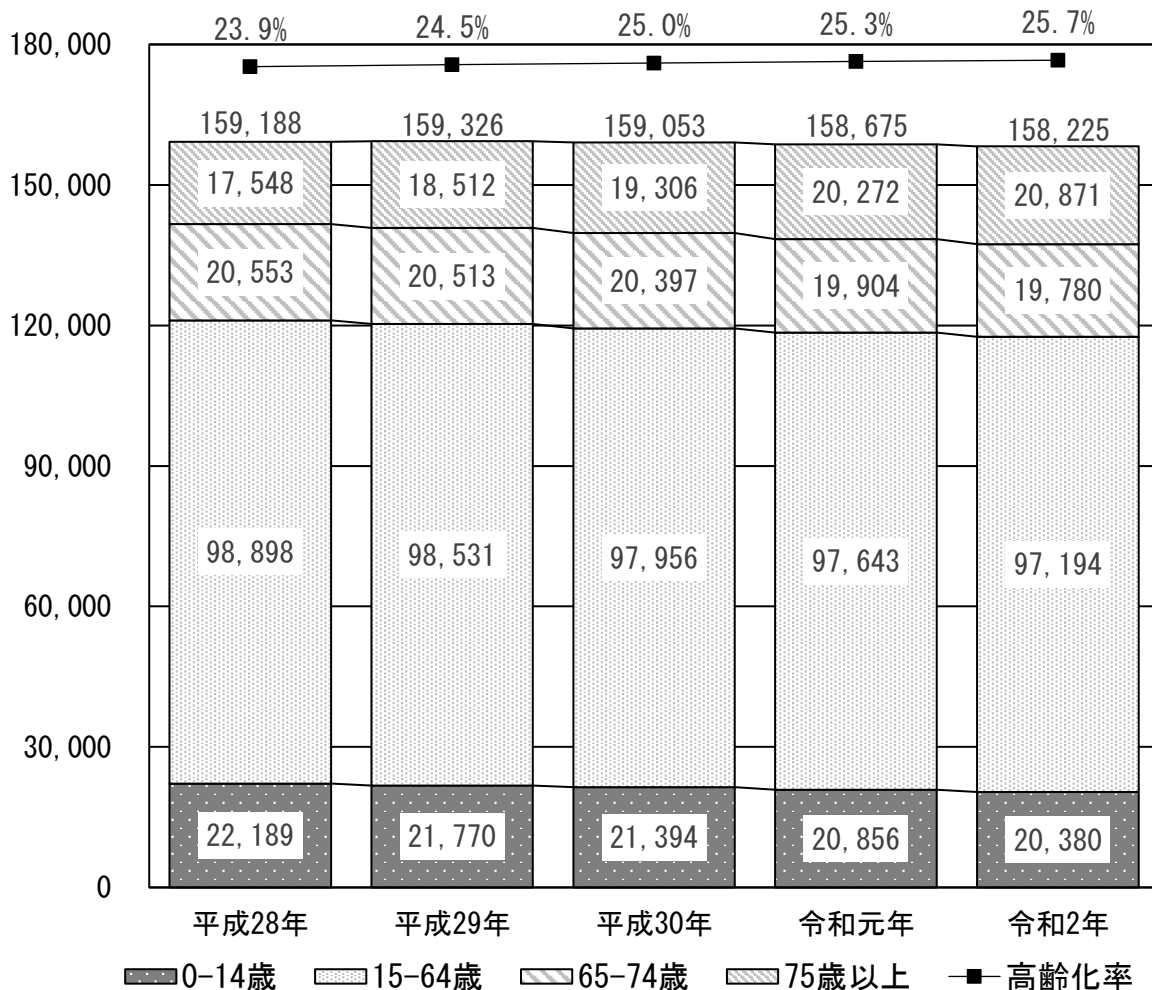
#### (1) 人口の推移

本市の総人口は、令和2年4月1日現在158,255人となっており、最近5年間で徐々に減少し始めています。

また、少子高齢化の進展に伴い、本市においても65歳以上の高齢者は増加傾向にあり、市の高齢化率は令和2年4月1日現在25.7%と、国（28.6%：令和2年総務省統計局「人口推計」）や茨城県（29.7%：令和2年茨城県統計課「常住人口調査」）に比べると低いものの、年々高くなっています。

更には、75歳以上の高齢者人口の増加も顕著であり、最近5年間に約3,300人増加しており、令和元年には、「75歳以上の人口」が「65歳から74歳までの人口」を追い抜きました。

▶ひたちなか市の人口推移



※ 各年4月1日現在の住民基本台帳の人口。

## (2) 介護保険被保険者数の推計

本市の介護保険被保険者数の推計では、平成30年と令和5年を比較しますと、第2号被保険者（40歳～64歳）数は、2.0ポイント減少し、第1号被保険者（65歳以上）数は4.0ポイント、うち65歳～74歳では10.9ポイント減であるのに対し、75歳以上は19.3ポイント増加するものと見込んでいます。

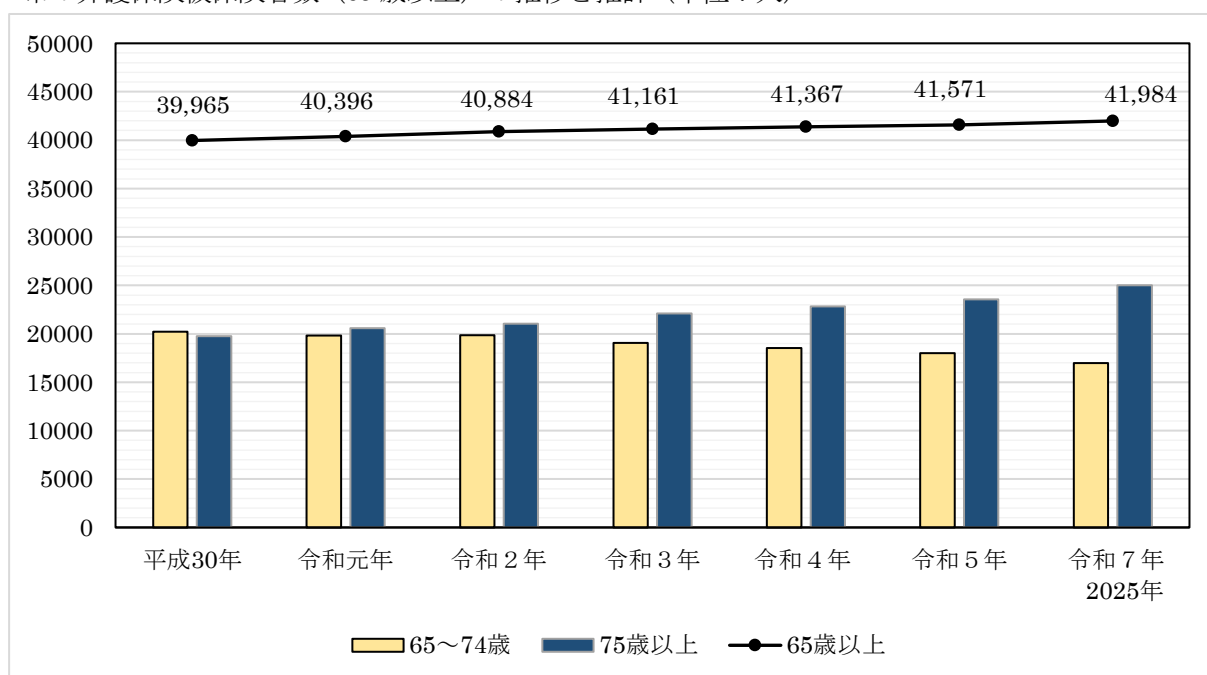
また、令和元年には75歳以上の被保険者数が65～74歳の被保険者数を上回る逆転現象となり、75歳以上の被保険者数は今後令和7年（2025年）に向けて増加が続いていくものと予測しています。

▶市の介護保険被保険者数の推移と推計（単位：人）

区分	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R7年
40歳以上合計	94,616	95,188	95,891	94,988	95,054	95,117	95,248
内訳	第2号被保険者 40～64歳	54,651	54,792	55,007	53,827	53,687	53,264
	第1号被保険者 65歳以上合計	39,965	40,396	40,884	41,161	41,367	41,984
	65～74歳	20,216	19,820	19,847	19,062	18,540	16,974
	75歳以上	19,749	20,576	21,037	22,099	22,827	25,010

※ 各年10月1日現在の住民基本台帳の人口。令和3年以降は、国立社会保障・人口問題研究所の数値を参考とした将来推計。

▶市の介護保険被保険者数（65歳以上）の推移と推計（単位：人）



## 2 高齢者の状況

### (1) 高齢者の世帯と住居状況

本市の高齢者がいる世帯数は増加傾向にあり、平成27年国勢調査では23,927世帯で、平成22年と比較して3,045世帯（世帯構成比：4.5ポイント）増加しています。中でもひとり暮らし世帯の増加が顕著となっています。

高齢者がいる世帯の住居状況は、本市においては持ち家率が88.6%と高いものの、前回調査時よりはわずかに減少しています。

#### ▶世帯状況の推移（単位：世帯）

区 分		H12年		H17年		H22年		H27年	
		世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
総世帯数		53,476	100.0%	56,319	100.0%	60,268	100.0%	61,104	100.0%
高齢者のいる世帯数計		14,112	26.4%	17,417	30.9%	20,882	34.6%	23,927	39.1%
内 訳	ひとり暮らし世帯数	2,038	3.8%	2,813	5.0%	3,739	6.2%	4,997	8.2%
	夫婦のみ世帯数	3,871	7.2%	5,401	9.6%	6,830	11.3%	7,786	12.7%
	その他の世帯数	8,203	15.4%	9,203	16.3%	10,313	17.1%	11,144	18.2%

資料：国勢調査

#### ▶高齢者のいる世帯の住居状況の推移（単位：世帯）

区 分		H12年		H17年		H22年		H27年	
		世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
高齢者のいる世帯数計		14,112	100.0%	17,417	100.0%	20,882	100.0%	23,927	100.0%
持ち家		12,770	90.5%	15,742	90.4%	18,547	88.8%	21,205	88.6%
借家		1,342	9.5%	1,675	9.6%	2,335	11.2%	2,722	11.4%
内 訳	公営・公団・公社	414	2.9%	585	3.4%	732	3.5%	907	3.8%
	民 営	756	5.4%	958	5.5%	1,318	6.3%	1,615	6.7%
	給与住宅（社宅）	53	0.4%	25	0.1%	35	0.2%	28	0.1%
	間 借 り	101	0.7%	97	0.6%	239	1.1%	116	0.5%
	そ の 他	18	0.1%	10	0.1%	11	0.1%	56	0.3%

資料：国勢調査

## (2) 高齢者の就労状況

本市の高齢者の就労状況を見ると、平成 27 年の国勢調査結果においては、65 歳以上の高齢者のうち就労している高齢者の割合は 20.4%となっています。過去 15 年間で著しい増減はないものの、就労している高齢者は、確実に増加しています。

▶就労状況（単位：人）

区 分	H7 年	H12 年	H17 年	H22 年	H27 年
総人口	146,750	151,673	153,639	157,060	155,689
高齢者人口(A)	16,543	20,326	25,739	31,744	37,127
15 歳以上労働力人口	75,639	75,888	73,067	78,032	78,027
65 歳以上労働力人口 (B)	3,928	4,250	5,164	5,999	7,562
高齢者就業率(B)／ (A)	23.7%	20.9%	20.1%	18.9%	20.4%

資料：国勢調査

### 3 要介護者等の現状と将来推計

要介護・要支援の認定者数は年々増加しており、令和2年9月末には6,372人となっています。将来推計として、認定者数はなだらかに上昇し、認定率は横ばいが続き、団塊の世代が75歳以上となる令和7年度には7,443人（認定率17.7%）に達するものと見込まれます。

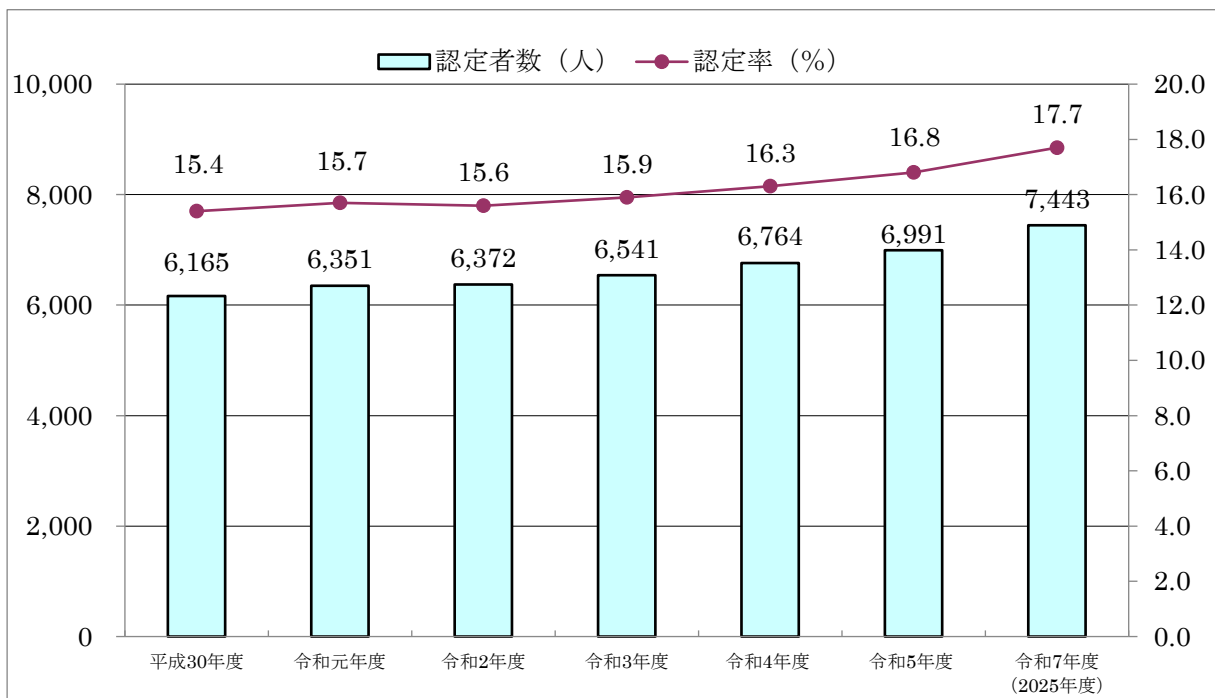
▶要介護度別認定者数の推移

区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R7年度 2025年度
要支援1	551	584	565	586	602	620	656
要支援2	1,055	1,061	1,012	1,027	1,061	1,096	1,166
要介護1	1,180	1,266	1,299	1,314	1,361	1,408	1,501
要介護2	1,255	1,292	1,310	1,360	1,407	1,452	1,547
要介護3	880	902	929	959	995	1,027	1,096
要介護4	746	782	790	813	841	873	929
要介護5	498	464	467	482	497	515	548
合計	6,165	6,351	6,372	6,541	6,764	6,991	7,443

※ 令和2年度までは10月1日現在の実績値。

※ 令和3年度以降は地域包括ケア「見える化」システムによる推計値。

▶要介護認定者数・認定率



## 4 日常生活圏域の設定

### (1) 基本的な考え方

日常生活圏域については、地理的条件や人口、住民の生活形態、地域づくり活動の単位等を総合的に勘案して設定しています。

要介護状態になっても、住み慣れた家庭や地域で生活続けることができるよう、市域または日常生活圏域ごとに地域に密着したサービスを提供していきます。

### (2) 本市における日常生活圏域の設定

本市では、中学校区を単位として、コミュニティセンターが整備されるとともに、地域住民のまちづくりやコミュニティ活動が行われています。また、コミュニティ組織や民生委員児童委員協議会も概ね中学校区を単位としてきたことから、本市における日常生活圏域の設定については、中学校区を単位としています。

ただし、平磯中学校区と阿字ヶ浦中学校区は、他の中学校区と比較して小規模であること等から、平磯中学校区と阿字ヶ浦中学校区を1つの日常生活圏域としています。また、令和3年4月より平磯中学校と阿字ヶ浦中学校が統合され、美乃浜学園となりますが、本計画内では、平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域と記載しています。

### (3) 本市における日常生活圏域ごとの特徴

#### ①勝田第一中学校区域

本市の中心部にあたり、常磐線勝田駅の東側を商店街が縦横に走り、その中に大型店舗が立地しています。近年、石川運動広場周辺を中心にマンションの建設が相次いでいます。区域の北東部には昭和40～50年代に造成された住宅団地があり、区域の南部は農業的土地利用が比較的多くなっています。

#### ②勝田第二中学校区域

常磐線勝田駅の西側に位置し、南北に通る国道6号線をはさんだ地域で、国道の東側の地域には工業系の大企業が立地しています。国道の西側の地域には昭和40～50年代に造成された住宅団地を始め、一般の分譲住宅が多く、区域南部の那珂川周辺の低地は、優良な水田地帯となっています。

#### ③勝田第三中学校区域

本市北東の臨海部に位置し、常陸那珂港区や国営ひたち海浜公園、常陸那珂工業団地等からなる「ひたちなか地区」と市街化調整区域による農業的土地利用が大半を占めています。県道馬渡瓜連線西側の市街化区域では、第2工業団地を取り巻くように昭和40～50年代に造成された住宅団地が点在するとともに、土地区画整理事業が進められています。

#### ④佐野中学校区域

本市の北部に位置し，常磐線佐和駅西側を中心に商店街を形成しています。市街化区域においては，佐和駅を中心に土地区画整理事業が進められています。市街化調整区域では，畑地と樹林地となっており，農業的土地利用が行われている区域ですが，北部には大規模な住宅団地が造成され，住宅の建設が進んでいます。

#### ⑤大島中学校区域

常磐線勝田駅を起点とする昭和通り線の北側に位置し，土地区画整理事業による都市基盤の整備と中心市街地や昭和通り線沿線への都市機能の集積に努めている区域です。

#### ⑥田彦中学校区域

常磐線勝田駅と佐和駅間の西側に位置し，南北に国道6号線をはさんだ区域で，国道より東側には勝田第1工業団地に工業系の企業が立地し，その周辺は住宅地となっています。

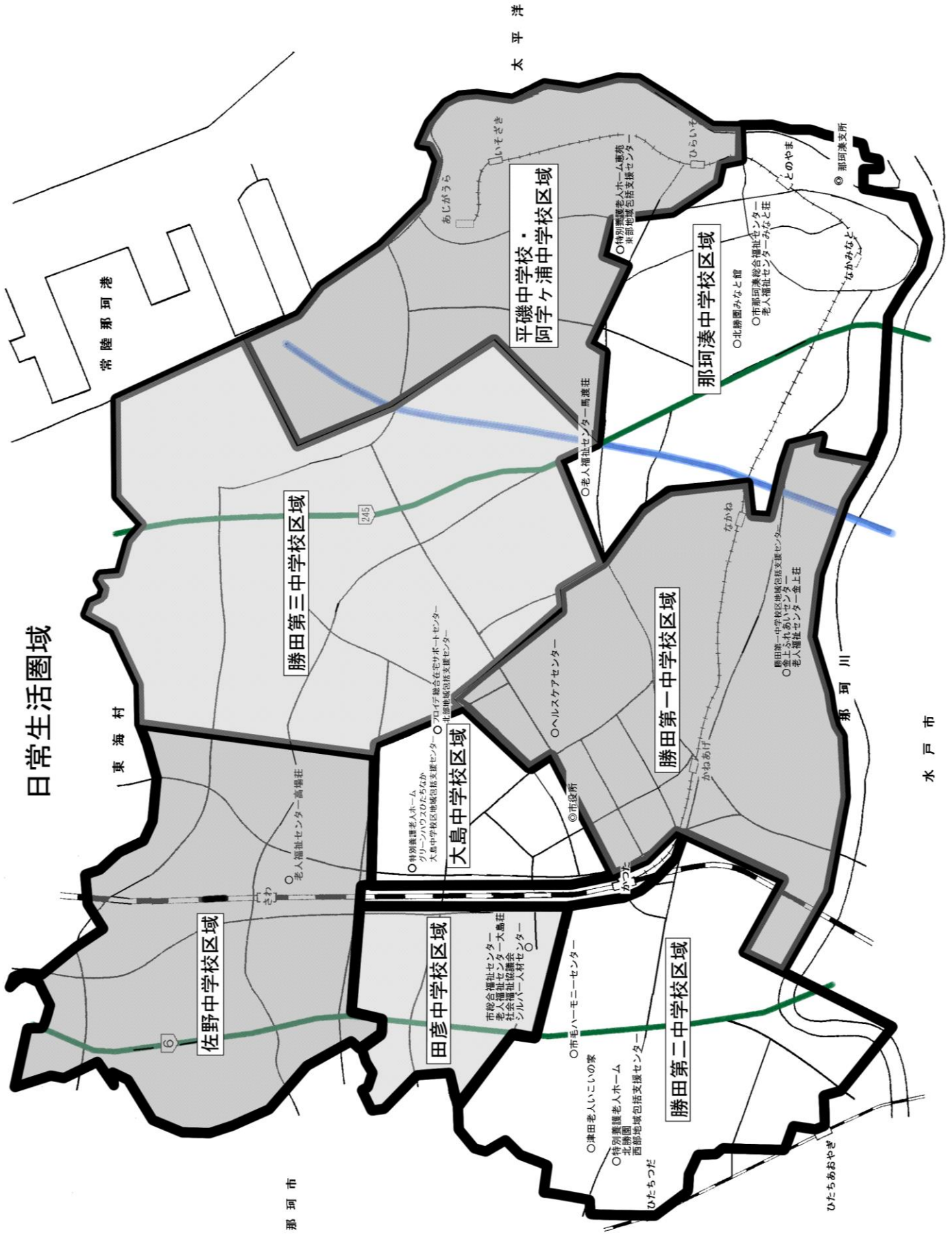
#### ⑦那珂湊中学校区域

東は太平洋に面し，南は那珂川に囲まれており，那珂湊地区の中心市街地を形成しています。古くから人口や産業が集積しており，那珂湊漁港を中心に水産物量販店が集積している区域です。国道245号線沿いで商業施設や住宅が建設されています。

#### ⑧平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域

本市東南の臨海部に位置し，常陸那珂港区や国営ひたち海浜公園等の大規模開発が進められている「ひたちなか地区」に隣接し，海の観光レクリエーションの拠点と市街化調整区域による農業的土地利用が大半を占めています。

# 日常生活圏域





#### (4) 日常生活圏域ごとの概況

区 分	面積 (K m <sup>2</sup> )	高齢者人口 (人)	要支援 1~2 (人)	要介護 1~2 (人)	要介護 3~5 (人)	認定率 (%)
勝田第一中学校区域	約 16	7,467	283	459	368	14.9
勝田第二中学校区域	約 12	6,381	287	421	366	16.8
勝田第三中学校区域	約 20	4,559	149	243	203	13.1
佐野中学校区域	約 13	5,508	180	333	270	14.2
大島中学校区域	約 9	4,371	153	220	225	13.7
田彦中学校区域	約 5	3,402	102	191	139	12.7
那珂湊中学校区域	約 12	5,955	282	478	360	18.8
平磯中学校・ 阿字ヶ浦中学校区域	約 12	3,074	121	230	190	17.6
計	約 99	40,717	1,557	2,575	2,121	15.4

※ 令和2年9月末現在。

## (5) 介護サービス基盤整備の状況

令和2年度におけるひたちなか市の介護サービス基盤整備の状況は、施設サービスとしては、広域型の特別養護老人ホームが7施設(410床)、地域密着型の特別養護老人ホームが4施設(84床)、老人保健施設が6施設(519床)などとなっています。

その他に、広域型の特定施設(介護付き有料老人ホーム)が2事業所(定数91名)、グループホームが18事業所(定数324名)となっています。

### ▶日常生活圏域別の整備状況(介護施設, 特定施設, グループホーム)

圏 域 名	特別養護老人ホーム		老人保健施設	特定施設		グループホーム
	広域型	地域密着型		広域型	地域密着型	
勝田第一中学校区域	1	1	2	—	—	2
勝田第二中学校区域	2	1	1	1	—	3
勝田第三中学校区域	1	—	—	1	—	1
佐野中学校区域	1	—	1	—	—	4
大島中学校区域	1	—	—	—	—	2
田彦中学校区域	—	1	—	—	—	1
那珂湊中学校区域	1	—	1	—	—	2
平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域	—	1	1	0	—	3
計	7	4	6	2	0	18

※ 令和2年11月1日現在。

▶日常生活圏域別の整備状況（居宅サービス（通所サービス・短期入所サービス））

圏 域 名	デイサービス			デイケア （通所リハ ビリ）	ショートステイ	
	（通所介護）	（地域密着型 通所介護）	（認知症対応 型通所介護）		（短期入所 生活介護）	（短期入所 療養介護）
勝田第一中学校区域	3	6	1	5	2	3
勝田第二中学校区域	1	3	1	3	3	1
勝田第三中学校区域	4	2	1	—	1	—
佐野中学校区域	6	5	—	2	1	1
大島中学校区域	3	4	1	2	1	—
田彦中学校区域	3	3	—	—	1	—
那珂湊中学校区域	5	1	1	3	1	—
平磯中学校・ 阿字ヶ浦中学校区域	1	2	—	2	1	1
計	26	26	5	17	11	6

※ 令和2年11月1日現在。

## 5 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

### (1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の概要

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、高齢者の生活状況や健康、社会生活等の状況を把握し、介護（予防）サービスをはじめとする各種サービスの提供等の参考とするものです。

【調査対象】	令和元年12月1日現在65歳以上の方 (要介護1以上の認定者は除く)
【対象者数】	5,000人 (内訳) 一般高齢者 4,763人 要支援認定者等 237人
【調査方法】	郵送発送・郵送回収法
【調査時期】	令和2年1月
【有効回収数】	3,596人(回収率 71.9%) (内訳) 一般高齢者 3,427人(回収率 72.0%) 要支援認定者等 169人(回収率 71.3%)
【調査内容】	厚生労働省の調査様式をもとに、市独自項目を追加し、下記の内容で調査しました。(詳細は参考資料に掲載) ①あなたのご家族や生活状況について ②からだを動かすことについて ③食べることについて ④毎日の生活について ⑤地域での活動について ⑥たすけあいについて ⑦健康について ⑧認知症にかかる相談窓口の把握について ⑨聞こえについて ⑩自動車の運転について ⑪在宅での医療や介護について ⑫おおよしより相談センターについて

## (2) 回答者の概要

### ①回答者の性別

項目	男性	女性	合計
回答者数(人)	1,785	1,811	3,596
構成比(%)	49.6	50.4	100.0

### ②年齢構成

項目	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合計
回答者数(人)	852	874	963	577	248	82	3596
構成比(%)	23.7	24.3	26.8	16.0	6.9	2.3	100.0

### ③回答者が居住する日常生活圏域

項目	勝田第一 中学校区域	勝田第二 中学校区域	勝田第三 中学校区域	佐野 中学校区域	大島 中学校区域
回答者数(人)	439	467	457	456	473
構成比(%)	12.2	13.0	12.7	12.7	13.2

項目	田彦 中学校区域	那珂湊 中学校区域	平磯中・阿字ヶ 浦中学校区域	合計
回答者数(人)	476	440	388	3,569
構成比(%)	13.2	12.2	10.8	100.0

### (3) 日常生活圏域別の回収率及び回答者の性別等の構成比

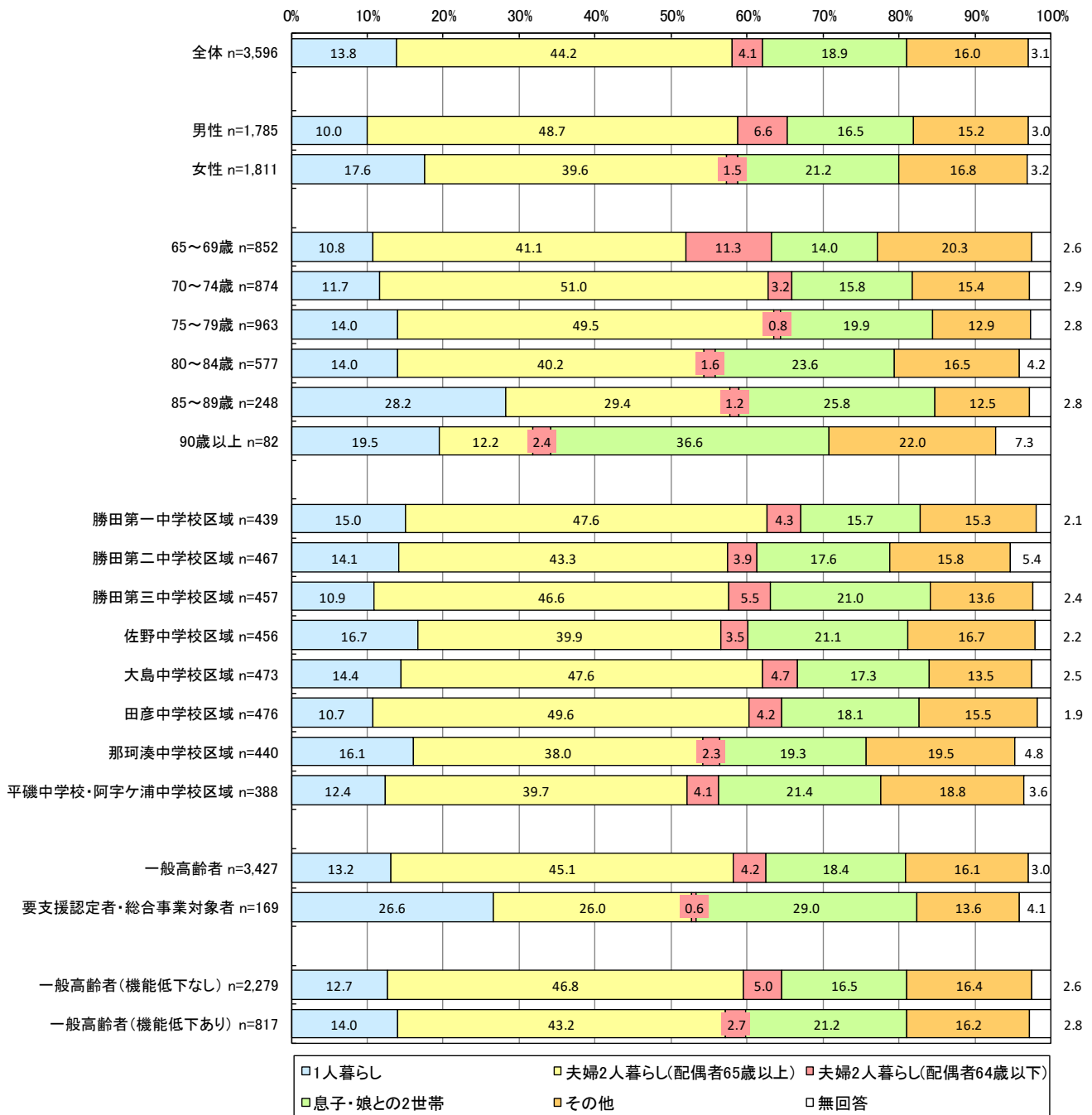
項目		勝田第一 中学校区域	勝田第二 中学校区域	勝田第三 中学校区域	佐野 中学校区域	大島 中学校区域	田彦 中学校区域	那珂湊 中学校区域	平磯中学校・ 阿字ヶ浦 中学校区域		
調査対象者数(人)		625	625	625	625	625	625	625	625		
回答者数(人)		439	467	457	456	473	476	440	388		
回答率		70.2%	74.7%	73.1%	73.0%	75.7%	76.2%	70.4%	62.1%		
回答者の内訳及び構成比	性別	男性	回答者数	215	232	227	222	245	237	216	191
			構成比	49.0%	49.7%	49.7%	48.7%	51.8%	49.8%	49.1%	49.2%
	女性	回答者数	224	235	230	234	228	239	224	197	
		構成比	51.0%	50.3%	50.3%	51.3%	48.2%	50.2%	50.9%	50.8%	
	年齢別	65～69歳	回答者数	102	113	116	114	103	111	100	93
			構成比	23.2%	24.2%	25.4%	25.0%	21.8%	23.3%	22.7%	24.0%
		70～74歳	回答者数	102	108	114	110	120	120	101	99
			構成比	23.2%	23.1%	24.9%	24.1%	25.4%	25.2%	23.0%	25.5%
		75～79歳	回答者数	112	126	150	107	135	143	110	80
			構成比	25.5%	27.0%	32.8%	23.5%	28.5%	30.0%	25.0%	20.6%
		80～84歳	回答者数	82	73	50	84	78	65	80	65
			構成比	18.7%	15.6%	10.9%	18.4%	16.5%	13.7%	18.2%	16.8%
		85～89歳	回答者数	27	37	17	32	27	30	38	40
			構成比	6.2%	7.9%	3.7%	7.0%	5.7%	6.3%	8.6%	10.3%
		90歳以上	回答者数	14	10	10	9	10	7	11	11
			構成比	3.2%	2.1%	2.2%	2.0%	2.1%	1.5%	2.5%	2.8%
	認定状況別	一般高齢者	回答者数	416	448	446	435	449	456	415	362
			構成比	94.8%	95.9%	97.6%	95.4%	94.9%	95.8%	94.3%	93.3%
		総合事業対象者	回答者数	2	1	1	3	1	5	1	7
			構成比	0.5%	0.2%	0.2%	0.7%	0.2%	1.1%	0.2%	1.8%
要支援1		回答者数	7	7	1	9	9	5	6	5	
		構成比	1.6%	1.5%	0.2%	2.0%	1.9%	1.1%	1.4%	1.3%	
要支援2	回答者数	14	11	9	9	14	10	18	14		
	構成比	3.2%	2.4%	2.0%	2.0%	3.0%	2.1%	4.1%	3.6%		

## (4) 調査結果

### ①あなたのご家族や生活状況について

家族構成については、全体では「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が44.2%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が18.9%、「1人暮らし」が13.8%となっています。

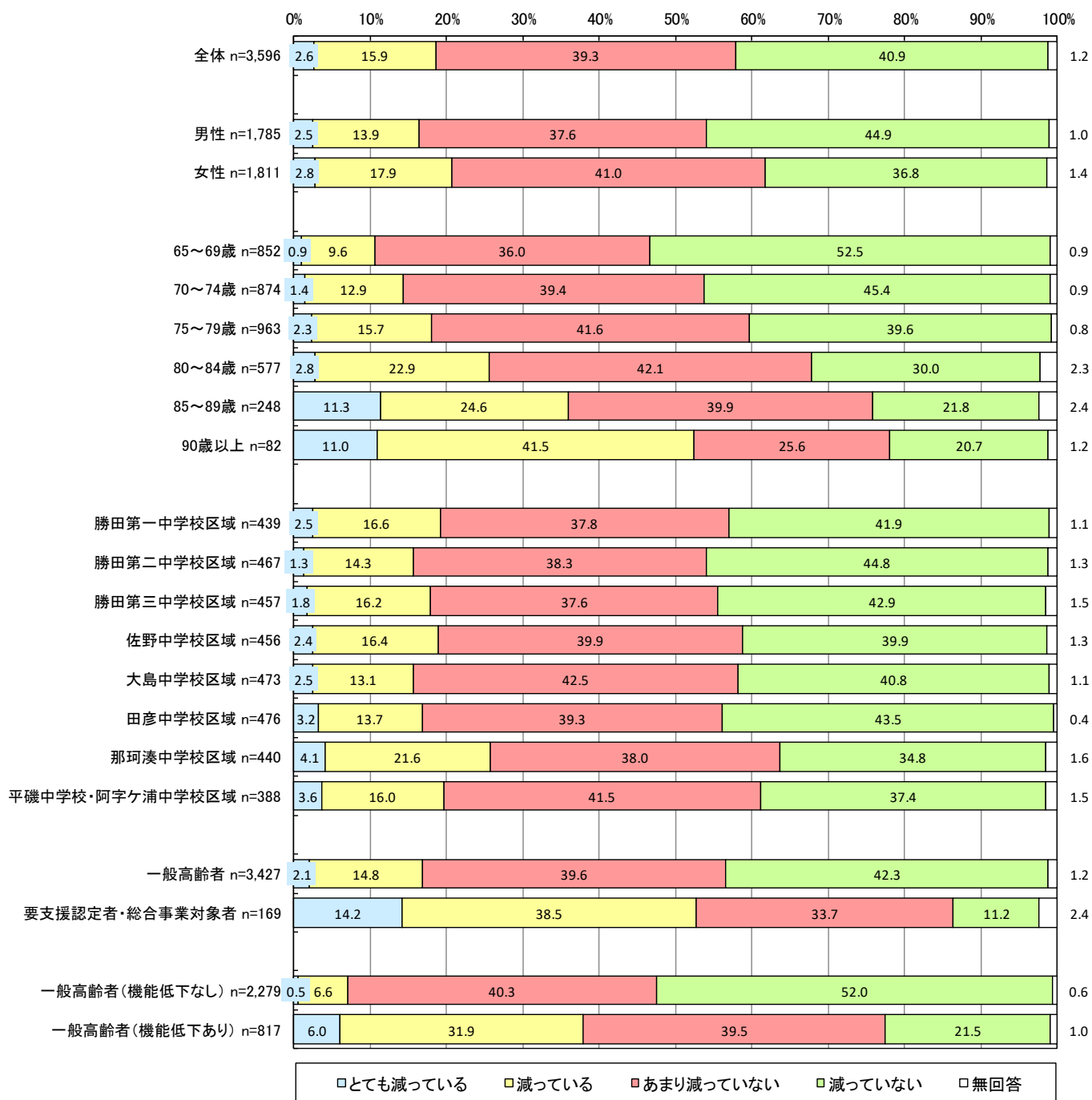
属性別では、女性、85～89歳、要支援認定者・総合事業対象者で「1人暮らし」の割合が高くなっています。



## ②体を動かすことについて

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、全体では「減っていない」が40.9%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が39.3%、「減っている」が15.9%、「とても減っている」が2.6%となっています。

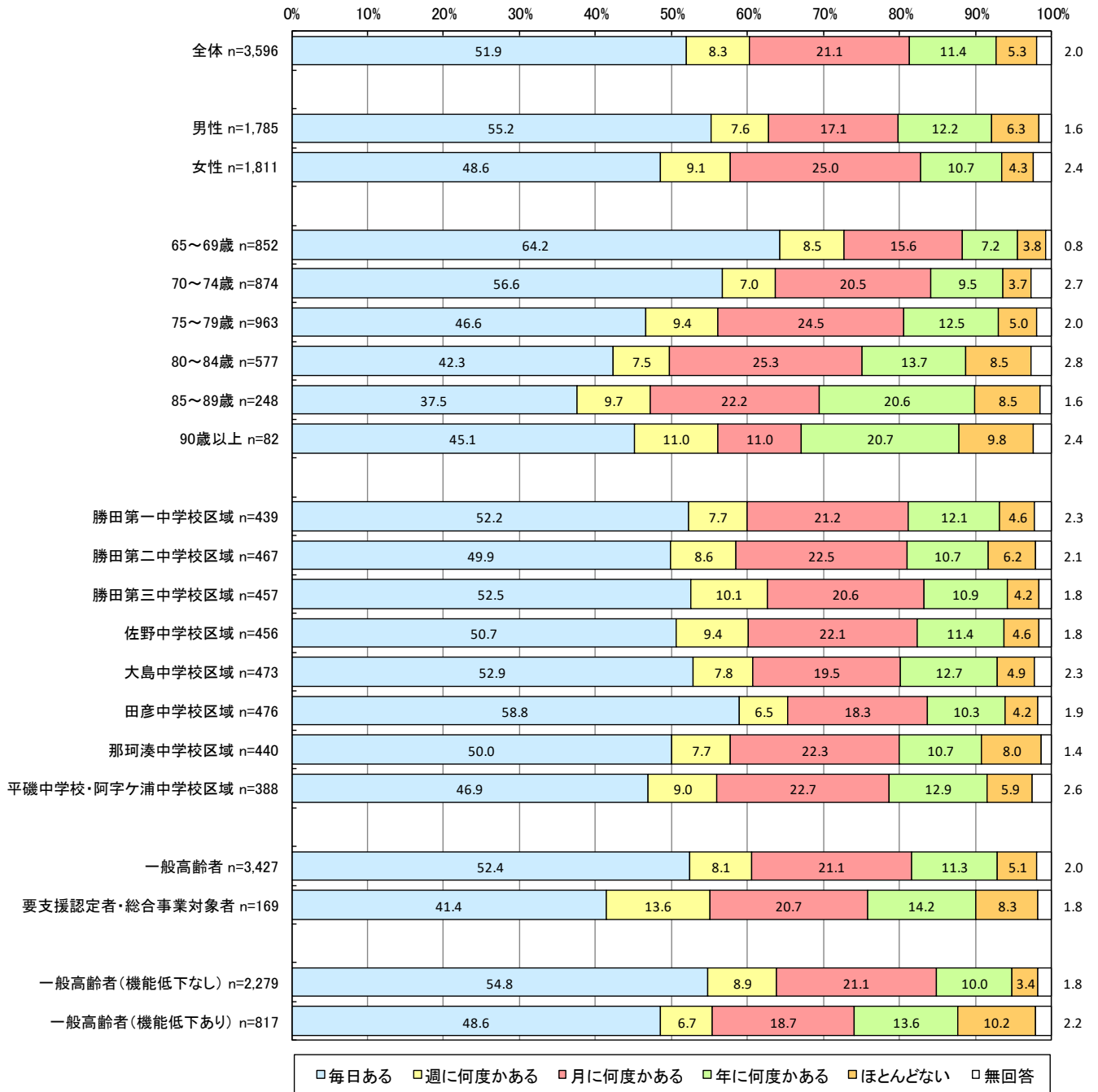
外出が減っている理由については、全体では「足腰などの痛み」が45.8%で最も高く、次いで「外での楽しみがない」が21.9%、「交通手段がない」が17.5%、「トイレの心配（失禁など）」が13.2%、「病気」が12.9%となっています。





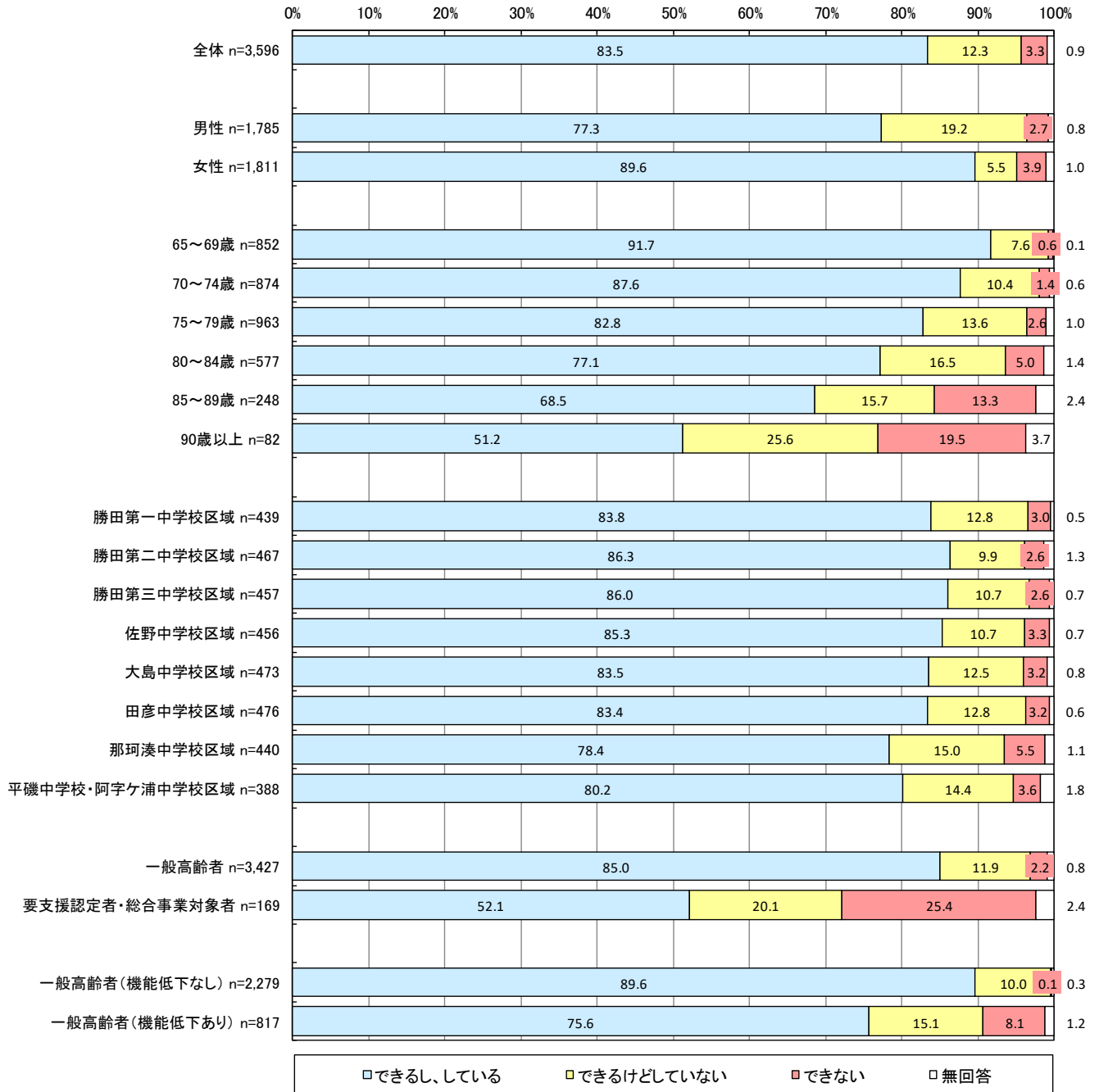
### ③食べることについて

どなたかと食事をとにもする機会があるかについては、全体では「毎日ある」が51.9%で最も高く、次いで「月に何度かある」が21.1%、「年に何度かある」が11.4%となっています。



④毎日の生活について

自分で食品・日用品の買い物をしているかについては、全体では「できるし、している」が83.5%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が12.3%、「できない」が3.3%となっています。



⑤地域での活動について

健康づくり活動や趣味等のグループ活動に企画・運営として参加してみたいと思うかについては、全体では「参加したくない」が60.7%で最も高く、次いで「参加してもよい」が21.7%、「既に参加している」が4.1%となっています。



⑥たすけあいについて

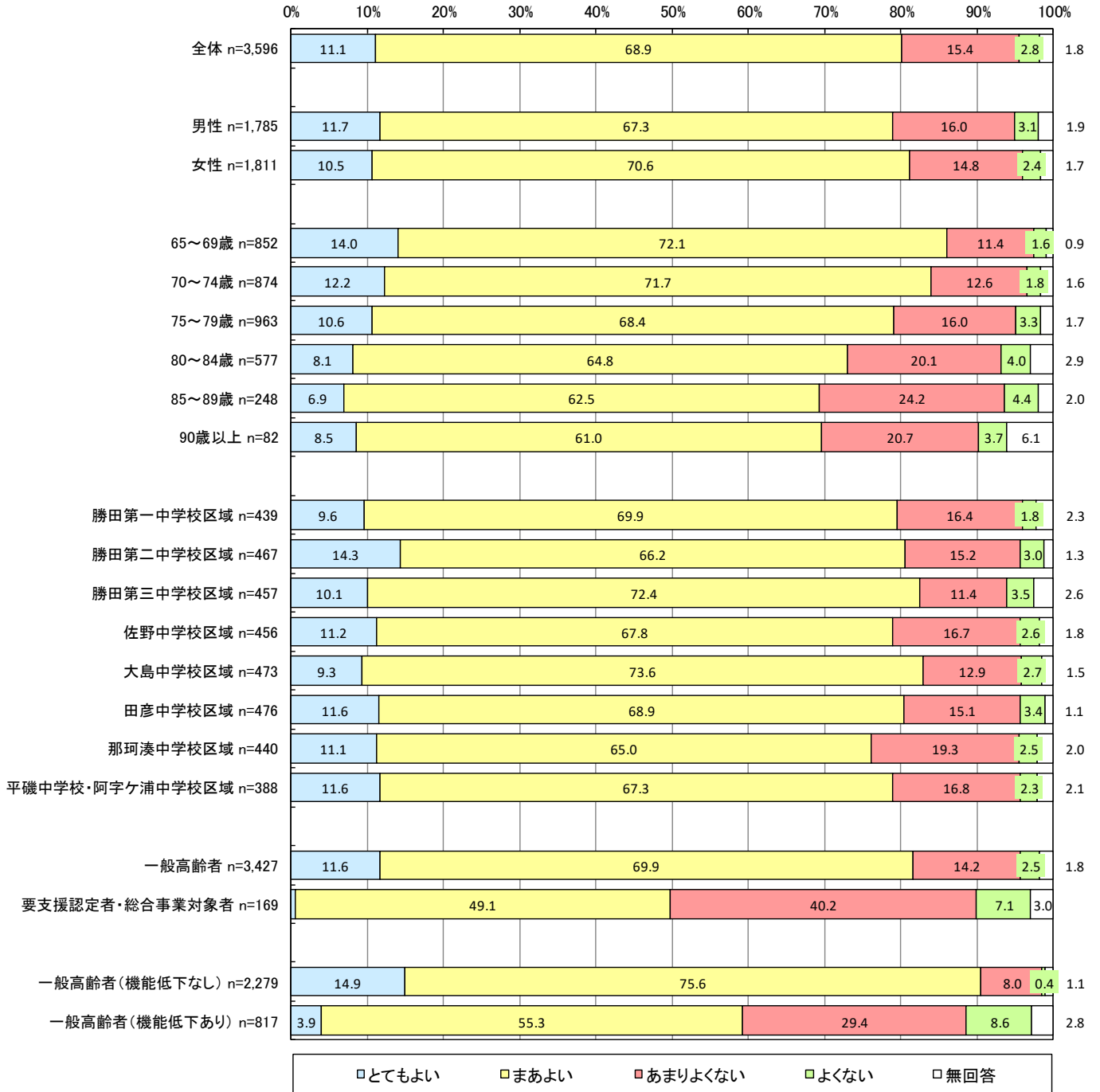
家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、全体では「そのような人はいない」が39.7%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が26.5%、「おとしより相談センター・市役所」が10.6%、「民生委員」が9.8%、「自治会・町内会・老人クラブ」が8.1%となっています。

単位 上段:実数(人)、下段:構成比(%)

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	無回答	総回答数	回答者数	
	自治会・町内会・老人クラブ	民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	おとしより相談センター・市役所	社会福祉協議会	その他	そのような人はいない				
全体	293	353	222	953	381	150	200	1,429	386	4,367	3,596	
	8.1	9.8	6.2	26.5	10.6	4.2	5.6	39.7	10.7	121.4	100.0	
性別	198	146	78	490	174	92	91	764	166	2,199	1,785	
	11.1	8.2	4.4	27.5	9.7	5.2	5.1	42.8	9.3	123.2	100.0	
	95	207	144	463	207	58	109	665	220	2,168	1,811	
	5.2	11.4	8.0	25.6	11.4	3.2	6.0	36.7	12.1	119.7	100.0	
年齢別	47	46	32	194	68	19	41	455	62	964	852	
	5.5	5.4	3.8	22.8	8.0	2.2	4.8	53.4	7.3	113.1	100.0	
	63	69	34	221	90	34	58	382	85	1,036	874	
	7.2	7.9	3.9	25.3	10.3	3.9	6.6	43.7	9.7	118.5	100.0	
	90	104	55	262	119	51	58	326	124	1,189	963	
	9.3	10.8	5.7	27.2	12.4	5.3	6.0	33.9	12.9	123.5	100.0	
	68	82	53	171	71	30	33	175	72	755	577	
	11.8	14.2	9.2	29.6	12.3	5.2	5.7	30.3	12.5	130.8	100.0	
	19	38	30	75	23	11	7	73	34	310	248	
	7.7	15.3	12.1	30.2	9.3	4.4	2.8	29.4	13.7	125.0	100.0	
	6	14	18	30	10	5	3	18	9	113	82	
	7.3	17.1	22.0	36.6	12.2	6.1	3.7	22.0	11.0	137.8	100.0	
	日常生活圏別	32	46	37	104	49	27	28	173	46	542	439
		7.3	10.5	8.4	23.7	11.2	6.2	6.4	39.4	10.5	123.5	100.0
43		50	27	153	45	24	31	173	45	591	467	
9.2		10.7	5.8	32.8	9.6	5.1	6.6	37.0	9.6	126.6	100.0	
35		40	24	121	49	16	29	188	48	550	457	
7.7		8.8	5.3	26.5	10.7	3.5	6.3	41.1	10.5	120.4	100.0	
33		47	30	103	58	17	17	193	50	548	456	
7.2		10.3	6.6	22.6	12.7	3.7	3.7	42.3	11.0	120.2	100.0	
41		55	34	124	57	22	36	187	35	591	473	
8.7		11.6	7.2	26.2	12.1	4.7	7.6	39.5	7.4	124.9	100.0	
37		32	25	126	55	21	25	202	45	568	476	
7.8		6.7	5.3	26.5	11.6	4.4	5.3	42.4	9.5	119.3	100.0	
41		39	22	130	43	15	17	156	52	515	440	
9.3		8.9	5.0	29.5	9.8	3.4	3.9	35.5	11.8	117.0	100.0	
31	44	23	92	25	8	17	157	65	462	388		
8.0	11.3	5.9	23.7	6.4	2.1	4.4	40.5	16.8	119.1	100.0		
認定状況別	286	338	137	914	357	145	190	1,395	376	4,138	3,427	
	8.3	9.9	4.0	26.7	10.4	4.2	5.5	40.7	11.0	120.7	100.0	
	7	15	85	39	24	5	10	34	10	229	169	
	4.1	8.9	50.3	23.1	14.2	3.0	5.9	20.1	5.9	135.5	100.0	
	208	230	85	631	245	98	124	926	226	2,773	2,279	
	9.1	10.1	3.7	27.7	10.8	4.3	5.4	40.6	9.9	121.7	100.0	
57	74	39	203	81	35	47	350	91	977	817		
7.0	9.1	4.8	24.8	9.9	4.3	5.8	42.8	11.1	119.6	100.0		

⑦健康について

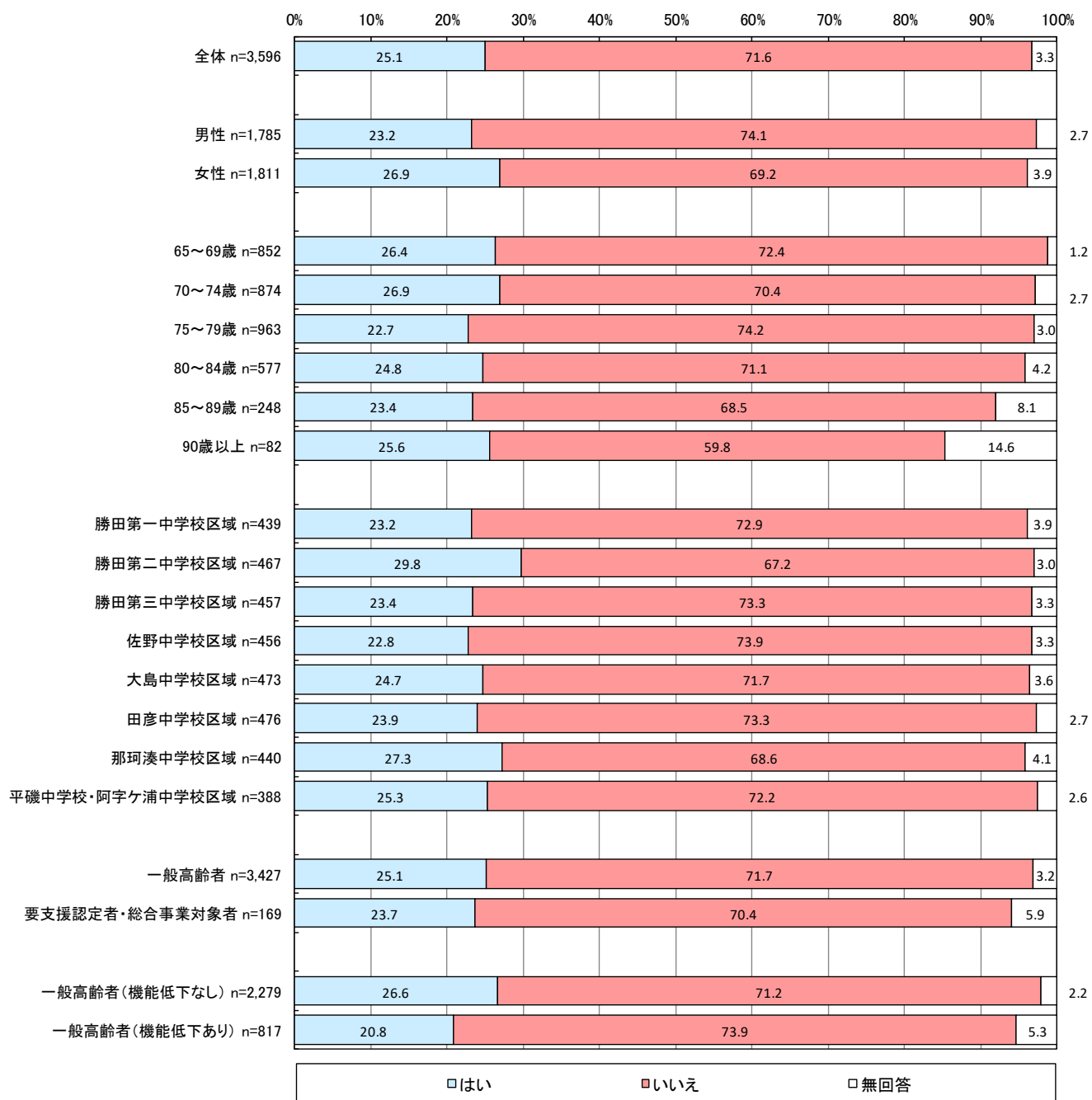
現在の健康状態については、全体では「まあよい」が68.9%で最も高く、次いで「あまりよくない」が15.4%、「とてもよい」が11.1%、「よくない」が2.8%となっています。



⑧認知症にかかる相談窓口の把握について

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、全体では「はい」が25.1%、「いいえ」が71.6%で、「いいえ」が46.5ポイント上回っています。

また、認知症の相談窓口として、知っている機関については、全体では「市役所」が56.9%で最も高く、次いで「認知症の専門病院」が38.4%、「おとしより相談センター」が35.6%となっています。



⑨自動車の運転について

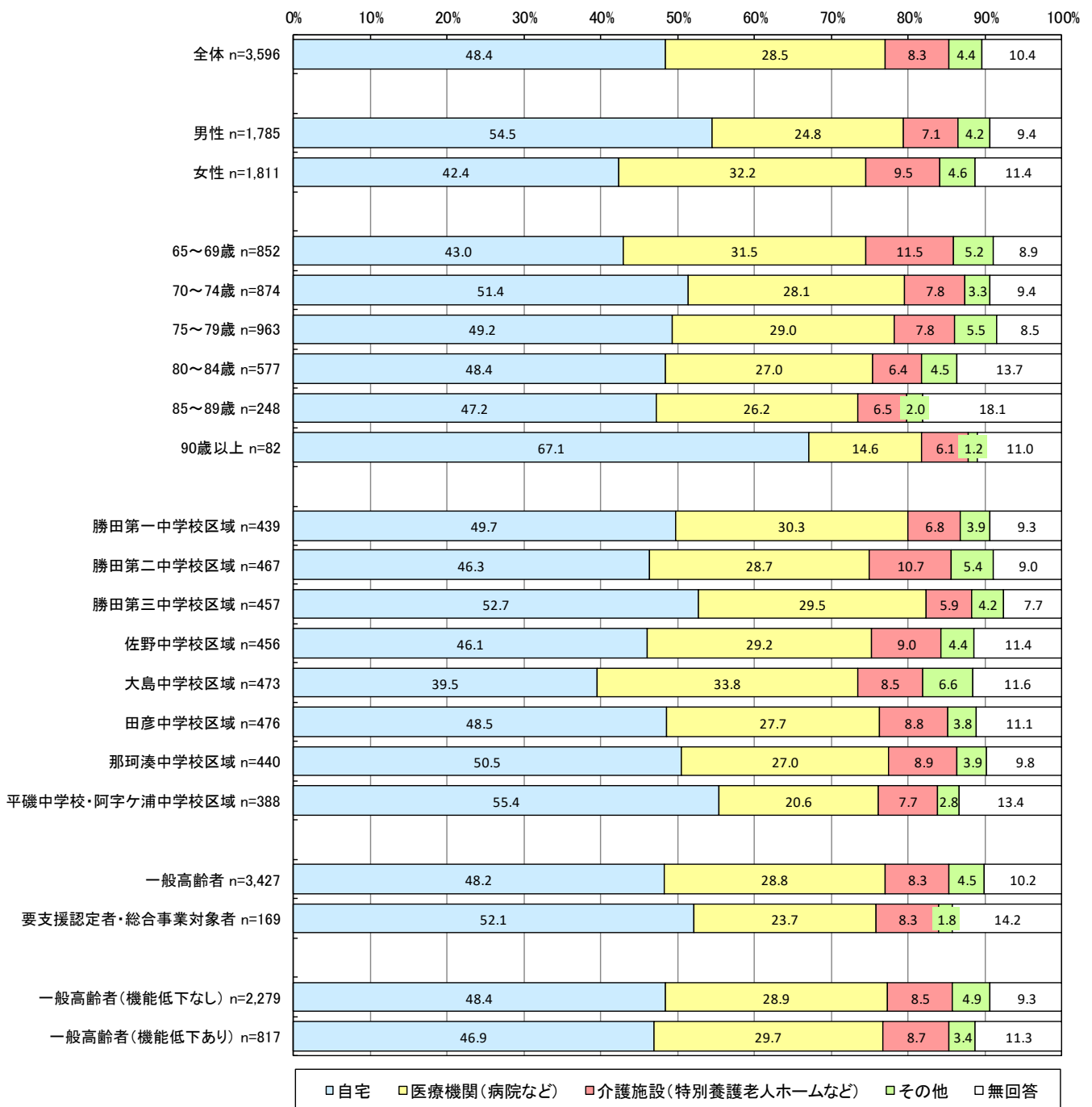
どのような環境が整えば、返納しやすくなるかについては、1,257人から合計1,532件の回答がありました。記入内容は、以下のように分類し掲載しています。

順位	免許返納しやすくなる環境に関する記入内容
第1位	交通機関の整備・利便性向上
第2位	交通機関の利用料無料・割引等の支援の充実
第3位	スマイルあおぞらバスの充実
第4位	通院のための送迎サービスなど，病院への交通手段の整備
第5位	運転が困難・不可能だと自覚したり，自信がなくなったら
第6位	買い物をするための交通手段が整備されれば
第7位	外出支援や移送サービスの充実
第8位	自宅周辺にスーパーや病院等の環境が整えば
第9位	宅配サービスなどの買い物支援の充実
第10位	乗り合いタクシーの整備
第11位	今まで通りの生活が送れる環境が整えば
第12位	自動運転などの技術の進歩により免許がなくても運転が可能になったら
第13位	通院や家族の介護，家族の送迎等がなくなったら
第14位	年齢や身体状況等，免許返納に関する一定の基準が設けられれば
第15位	仕事を辞めたら
第16位	返納するかについて，環境は関係ない
第17位	身分証明書として代わりになるものがあれば
第18位	外出する際などに家族の協力が得られれば
第19位	災害時や緊急時に対応できる環境整備
第20位	その他

⑩在宅での医療や介護について

最期を迎える場として希望する場所については、全体では「自宅」が48.4%で最も高く、次いで「医療機関（病院など）」が28.5%、「介護施設（特別養護老人ホームなど）」が8.3%となっています。

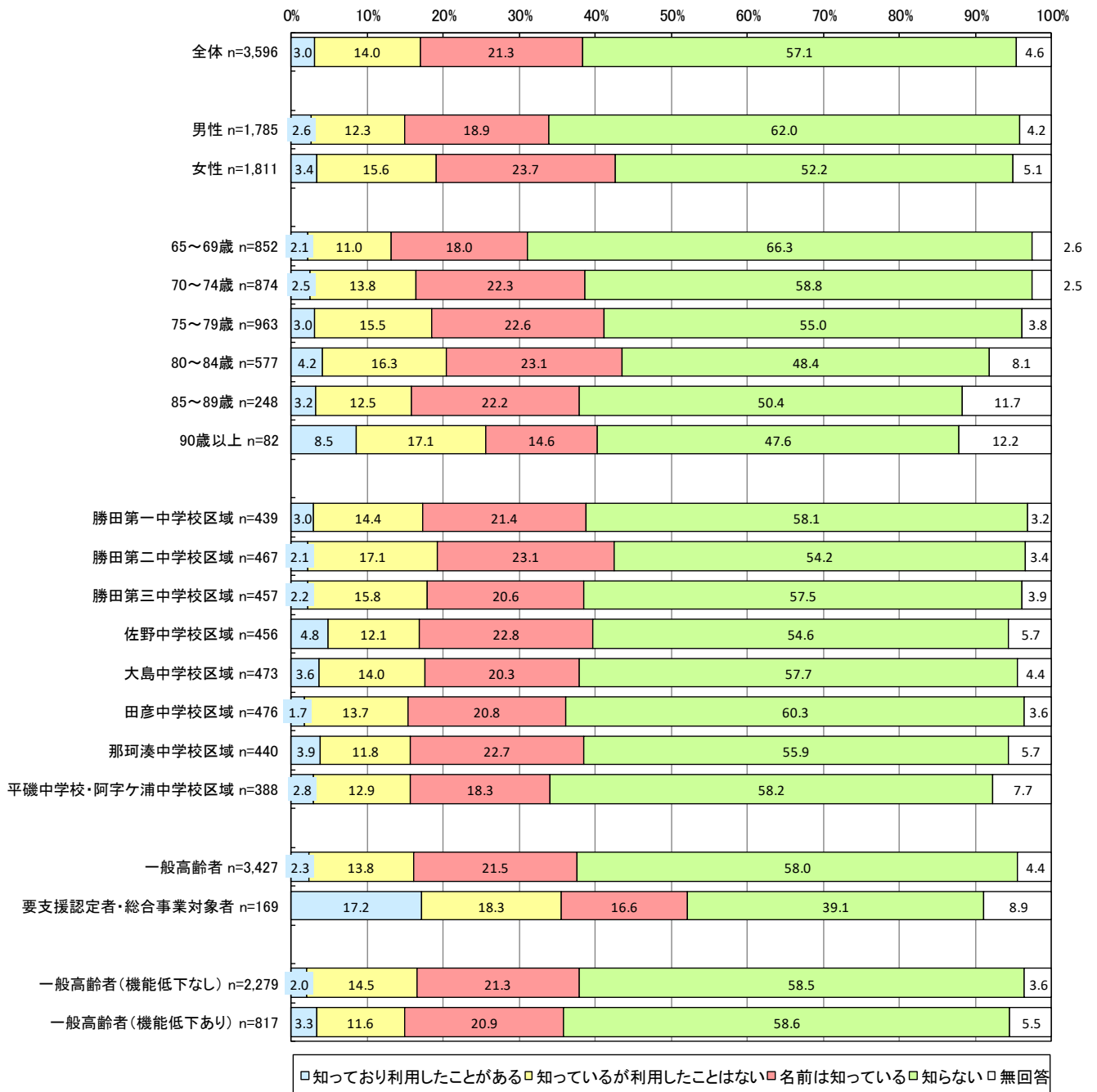
最期を迎える場として自宅を選んだ理由については、全体では「住み慣れた場所で最期を迎えたい」が76.0%で最も高く、次いで「最期まで自分らしく過ごしたい」が53.4%、「家族などと過ごす時間を多くしたい」が39.2%、「家族などに看取られたい」が32.2%、「医療機関や介護施設に入ると、経済的に負担が大きい」が24.8%となっています。





⑪おとしより相談センターについて

市内にある高齢者の相談窓口「おとしより相談センター」を知っているかについては、全体では「知らない」が57.1%で最も高く、次いで「名前は知っている」が21.3%、「知っているが利用したことはない」が14.0%、「知っており利用したことがある」が3.0%となっています。



## (5) 介護予防のための生活機能評価について

生活機能評価により機能低下ありと評価された高齢者（評価項目中①から③のいずれかに機能低下が見られた高齢者）の割合は、29.1%であった。各評価項目別では運動器が11.6%、口腔が20.3%、虚弱が6.2%、認知機能が42.1%、閉じこもりが14.6%、うつが34.1%でした。

男女別にみると、すべての評価項目で女性が男性を上回る割合となっており、特に運動器においてその差が大きくなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるに従い、各評価項目の該当者の割合が高くなっています。その差が大きい項目が運動器と虚弱、閉じこもりで、運動器では65～69歳の3.7%に対し、90歳以上は48.8%、虚弱では65～69歳の0.9%に対し、90歳以上は51.1%、閉じこもりでは65～69歳の7.9%に対し、90歳以上は49.4%が該当しています。

日常生活圏域別にみると、那珂湊中学校区域、平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域で該当割合が高くなっています。

### ▶各評価項目の該当者割合

評価項目		①運動器	②口腔	③虚弱	④認知機能	⑤閉じこもり	⑥うつ	①～③のいずれかに該当
全体		11.6%	20.3%	6.2%	42.1%	14.6%	34.1%	29.1%
性別	男性	7.9%	20.0%	4.8%	39.4%	12.3%	33.2%	25.6%
	女性	15.3%	20.6%	7.6%	44.9%	16.8%	34.9%	32.8%
年齢別	65～69歳	3.7%	16.4%	0.9%	36.8%	7.9%	31.8%	19.4%
	70～74歳	6.3%	15.1%	1.9%	36.0%	10.8%	32.6%	20.5%
	75～79歳	10.5%	20.6%	4.9%	42.3%	13.2%	34.5%	29.1%
	80～84歳	18.1%	27.4%	12.5%	49.3%	17.7%	36.1%	40.2%
	85～89歳	36.1%	30.2%	28.2%	57.4%	38.2%	40.3%	59.1%
	90歳以上	48.8%	34.6%	51.1%	65.4%	49.4%	38.5%	72.1%
日常生活圏域別	勝田第一中学校区域	10.8%	17.0%	5.8%	43.3%	12.4%	31.3%	25.6%
	勝田第二中学校区域	9.8%	21.6%	5.4%	40.5%	12.6%	37.7%	30.0%
	勝田第三中学校区域	8.9%	17.8%	4.7%	41.7%	14.2%	33.6%	25.1%
	佐野中学校区域	10.3%	20.9%	6.2%	47.3%	13.1%	37.4%	28.3%
	大島中学校区域	9.6%	19.4%	4.4%	36.6%	12.2%	31.2%	26.1%
	田彦中学校区域	11.8%	19.0%	4.3%	36.9%	13.6%	32.9%	28.5%
	那珂湊中学校区域	16.1%	24.0%	10.6%	48.5%	18.6%	35.3%	34.8%
	平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域	17.1%	23.2%	9.1%	43.3%	21.3%	33.3%	35.7%
状況別	一般高齢者	8.8%	19.0%	4.1%	41.3%	13.4%	33.2%	26.4%
	要支援認定者・総合事業対象者	69.3%	46.4%	65.0%	59.9%	39.2%	53.4%	83.9%

## (6) その他の生活機能評価の結果について

介護予防のための生活機能評価のほか、本調査票には、①転倒リスク、②手段的自立度（IADL）、③生活機能総合評価の生活機能、身体機能を評価するための項目が設けられています。

回答者全体で各項目の評価結果についてみると、転倒リスクは全体で 26.0% が「該当者」と判定されました。男女別にみると、男性の 23.4% に対し、女性は 28.5% と判定されています。年齢別にみると、年齢が高くなるに従い、該当者割合も高くなり、65～69 歳では 20.7% に対し、90 歳以上では 38.5% が該当者と判定されています。

手段的自立度（IADL）については、高いが 87.8%、やや低いが 7.3%、低い が 4.9% との評価結果となっています。また、生活機能総合評価では、高いが 88.3%、やや低いが 9.1%、低い が 2.7% との評価結果となっています。手段的自立度より、生活機能総合評価の方が、若干低い評価結果となっています。男女別に「低い」と判定された割合をみると、手段的自立度については、男性は 4.7%、女性は 5.0% と判定されており、生活機能総合評価については、男性は 2.7%、女性は 2.6% と判定されています。年齢別にみると、年齢が高くなるに従い、次第に機能が低下する評価結果であり、90 歳以上では手段的自立度で 25.3% が、生活機能総合評価で 14.9% が、「低い」と判定されています。

### ▶各評価項目の該当者の割合

評価項目		転倒リスク	手段的自立度 (IADL)	生活機能総合評価
		該当者	低い	低い
全体		26.0%	4.9%	2.7%
性別	男性	23.4%	4.7%	2.7%
	女性	28.5%	5.0%	2.6%
年齢別	65～69歳	20.7%	1.3%	0.8%
	70～74歳	23.2%	1.7%	1.2%
	75～79歳	26.4%	4.2%	1.8%
	80～84歳	29.9%	7.7%	4.9%
	85～89歳	39.2%	18.0%	9.2%
	90歳以上	38.5%	25.3%	14.9%
日常生活圏域別	勝田第一中学校区域	25.3%	4.0%	2.1%
	勝田第二中学校区域	25.5%	4.6%	2.0%
	勝田第三中学校区域	23.6%	3.8%	1.8%
	佐野中学校区域	26.5%	4.5%	1.6%
	大島中学校区域	25.7%	3.4%	2.4%
	田彦中学校区域	22.9%	4.7%	3.7%
	那珂湊中学校区域	29.6%	8.0%	4.3%
	平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域	29.4%	6.2%	3.8%
認定状況別	一般高齢者	24.5%	3.6%	2.0%
	要支援認定者・総合事業対象者	55.8%	30.9%	16.7%
	一般高齢者（機能低下なし）	15.5%	0.6%	0.2%
	一般高齢者（機能低下あり）	47.6%	11.8%	7.2%

## (7) 日常生活圏域別の実態のまとめ

本市は、8地区の日常生活圏域で構成する。今回の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果より、各日常生活圏域の高齢者実態について、他の日常生活圏域と比較した傾向についてまとめました。

### ①勝田第一中学校区域

- 前期高齢者が46.4%、後期高齢者が53.6%と、後期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では、1人暮らしの割合が高い。
- 自身の健康状態では、とてもよい、まあよいの割合の合計値は、平均的な値を示している。
- 経済状況では、大変苦しい、やや苦しいの割合の合計値が高い。
- 外出する際の移動手段では、徒歩、路線バスの割合が高い。
- だれかと食事をする機会では、毎日ある、週に何度かあるの割合の合計値は、平均的な値を示している。
- 社会参加では、参加者として参加する意向においては、是非参加したい、参加してもよいの割合は平均的な値を示している。また、企画・運営として参加する意向においては、是非参加したい、参加してもよいの割合が高い。
- 現在の幸福感では、6点～10点の割合の合計値は72.9%である。
- 6分類リスクでは、口腔、閉じこもり、うつでは低い該当率を示している。

### ②勝田第二中学校区域

- 前期高齢者が47.3%、後期高齢者が52.6%と、後期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では、すべての項目において平均的な値を示している。
- 自身の健康状態では、とてもよい、まあよい割合の合計値が高い。
- 経済状況では、大変苦しい、やや苦しいの割合の合計値が低く、ふつうの割合が高い。
- 外出する際の移動手段では、自転車、路線バス、タクシーの割合が高い。
- だれかと食事をする機会では、毎日ある、週に何度かあるの割合の合計値が低い。
- 社会参加では、参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに、是非参加したい、参加してもよいの割合の合計値が高い。
- 現在の幸福感では、6点～10点の割合の合計値は74.3%である。
- 6分類リスクでは、うつにおいて高い該当率を示すが、運動器、認知機能、閉じこもりにおいて低い該当率である。

### ③勝田第三中学校区域

- 前期高齢者が 50.3%，後期高齢者が 49.6%と，前期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では，夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）の割合が高く，1 人暮らしの割合が低い。
- 自身の健康状態では，とてもよい，まあよいの割合の合計値が高い。
- 経済状況では，大変苦しい，やや苦しいの割合の合計値が低く，ふつうの割合が高い。
- 外出する際の移動手段では，自動車（自分で運転），路線バスの割合が高い。
- だれかと食事をする機会では，毎日ある，週に何度かあるの割合の合計値が高い。
- 社会参加では，参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに，是非参加したい，参加してもよいの割合の合計値が高い。
- 現在の幸福感では，6 点～10 点の合計値は 72.1%である。
- 6 分類リスクでは，運動器，口腔で低い該当率を示し，虚弱，認知機能，うつでは平均的な値を示している。

### ④佐野中学校区域

- 前期高齢者が 49.1%，後期高齢者が 50.9%と，後期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では，1 人暮らし，息子・娘との 2 世帯の割合が高い。
- 自身の健康状態では，あまりよくない，よくないの割合の合計値が高い。
- 経済状況では，ややゆとりがある，大変ゆとりがあるの割合の合計値が低い。
- 外出する際の移動手段では，自動車（自分で運転）の割合が高い。
- だれかと食事をする機会では，週に何度かあるの割合が高い。
- 社会参加では，参加者として参加する意向においては，是非参加したい，参加してもよいの割合が高い。また，企画・運営として参加する意向においては，是非参加したい，参加してもよいの割合が平均的な値を示している。
- 現在の幸福感では，6 点～10 点の合計値は 69.7%である。
- 6 分類リスクでは，認知機能，うつで高い該当率を示している。

### ⑤大島中学校区域

- 前期高齢者が 47.2%，後期高齢者が 52.8%と，後期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では，夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上），夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）の割合が高い。
- 自身の健康状態では，とてもよい，まあよいの割合の合計値が高い。
- 経済状況では，ややゆとりがある，大変ゆとりがあるの割合の合計値が高い。
- 外出する際の移動手段では，徒歩，電車の割合が高い。
- だれかと食事をする機会では，毎日ある，年に何度かあるの割合の合計値が高い。
- 社会参加では，参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに，是非参加したい，参加してもよいの割合の合計値が低い。
- 現在の幸福感では，6 点～10 点の合計値は 75.1%である。
- 6 分類リスクでは，すべての項目で低い該当率を示している。

⑥田彦中学校区域

- 前期高齢者が 48.5%，後期高齢者が 51.5%と，後期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では，夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）の割合が高く，1 人暮らしの割合が低い。
- 自身の健康状態では，とてもよい，まあよいの割合の合計値が高い。
- 経済状況では，ややゆとりがある，大変ゆとりがあるの割合の合計値が高い。
- 外出する際の移動手段では，徒歩，自転車，自動車（自分で運転），電車の割合が高い。
- だれかと食事をする機会では，毎日あるの割合が高い。
- 社会参加では，参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに，是非参加したい，参加してもよいの割合が平均的な値を示している。
- 現在の幸福感では，6 点～10 点の合計値は 74.7%である。
- 6 分類リスクでは，すべての項目で平均的な値を示している。

⑦那珂湊中学校区域

- 前期高齢者が 45.7%，後期高齢者が 54.3%と，後期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では，1 人暮らしの割合が高い。
- 自身の健康状態では，あまりよくない，よくないの割合の合計値が高い。
- 経済状況では，大変苦しい，やや苦しいの割合の合計値が高い。
- 外出する際の移動手段では，バイク，自動車（人に乗せてもらう）の割合が高い。
- だれかと食事をする機会では，ほとんどないの割合の合計値が高い。
- 社会参加では，参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに，是非参加したい，参加してもよいの割合が低い。
- 現在の幸福感では，6 点～10 点の合計値は 66.6%である。
- 6 分類リスクでは，すべての項目で高い該当率を示している。

⑧平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域

- 前期高齢者が 49.5%，後期高齢者が 50.5%と，後期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では，息子・娘との 2 世帯の割合が高い。
- 自身の健康状態では，あまりよくない，よくないの割合の合計値が高い。
- 経済状況では，大変苦しい，やや苦しいの割合の合計値が高い。
- 外出する際の移動手段では，バイク，自動車（人に乗せてもらう）の割合が高い。
- だれかと食事をする機会では，月に何度かある，年に何度かあるの割合が高く，毎日あるの割合が低い。
- 社会参加では，参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに，是非参加したい，参加してもよいの割合が低い。
- 現在の幸福感では，6 点～10 点の合計値は 67.2%である。
- 6 分類リスクでは，虚弱，運動器，口腔，閉じこもりで高い該当率を示している。

## 6 在宅介護実態調査

### (1) 在宅介護実態調査の概要

在宅介護実態調査は、第8期介護保険事業計画の策定において、介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要かといった観点を盛り込むため、高齢者等の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向けた介護サービスのあり方を検討することを目的として、在宅で要支援・要介護認定を受けている方を対象に調査を実施しました。

#### 【調査対象者】

医療機関への入院者または介護保険施設等への入所・入居者を除く在宅の要支援・要介護者で実施期間中に要介護認定の更新または区分変更の申請を行った方

#### 【調査方法】

認定調査時に認定調査員による聞き取り調査と郵送調査の併用

#### 【調査実施期間】

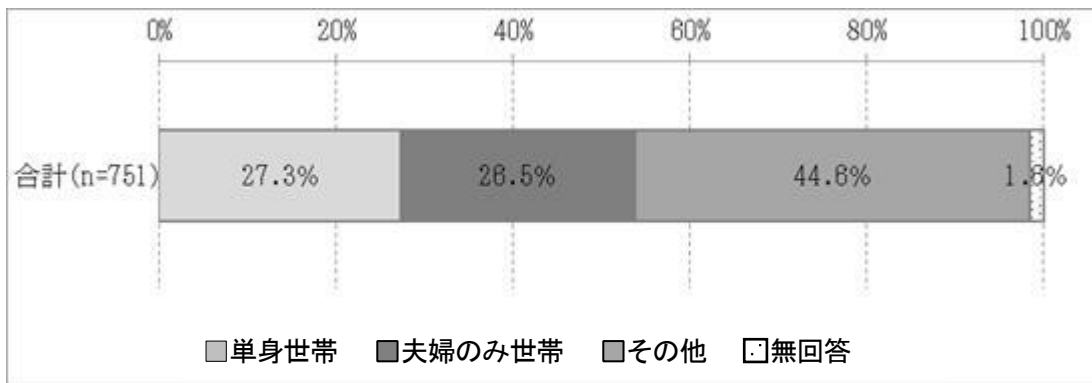
令和2年1月20日～3月30日

#### 【調査実績】

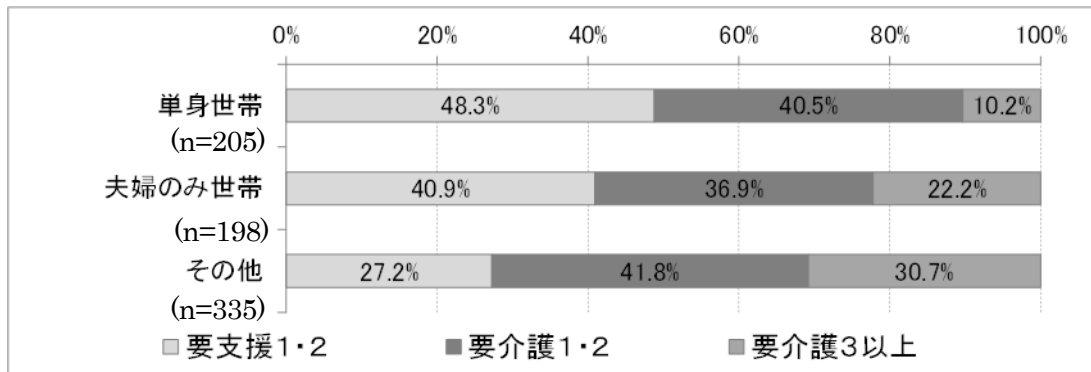
調査方法	調査対象者数	回収数	回収率
認定調査員による聞き取り	147	59	40.1%
郵送調査	1,402	695	49.6%
合計	1,549	754	48.7%

## (2) 調査結果

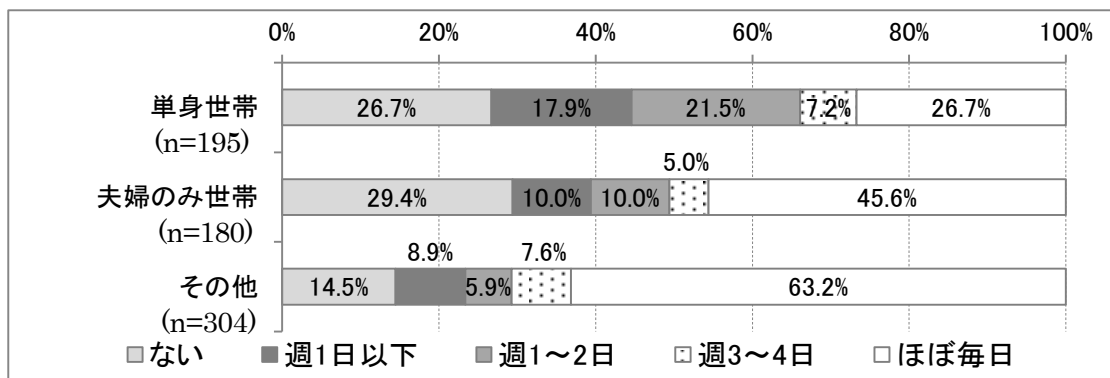
### ①調査対象者の世帯構成



### ②調査対象者の要介護度の割合



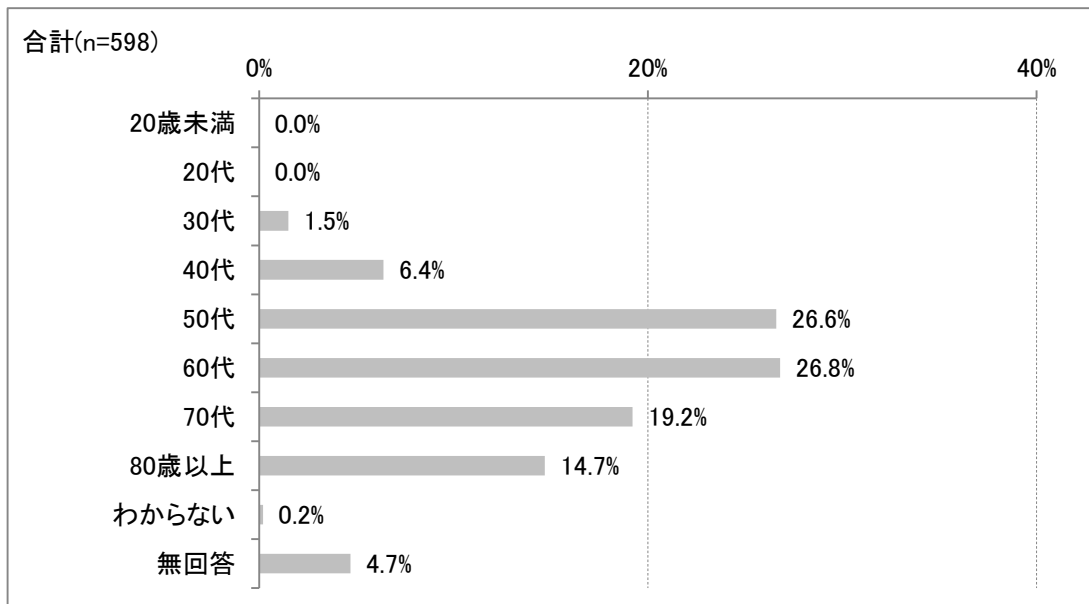
### ③家族・親族の介護の頻度等 (世帯構成)





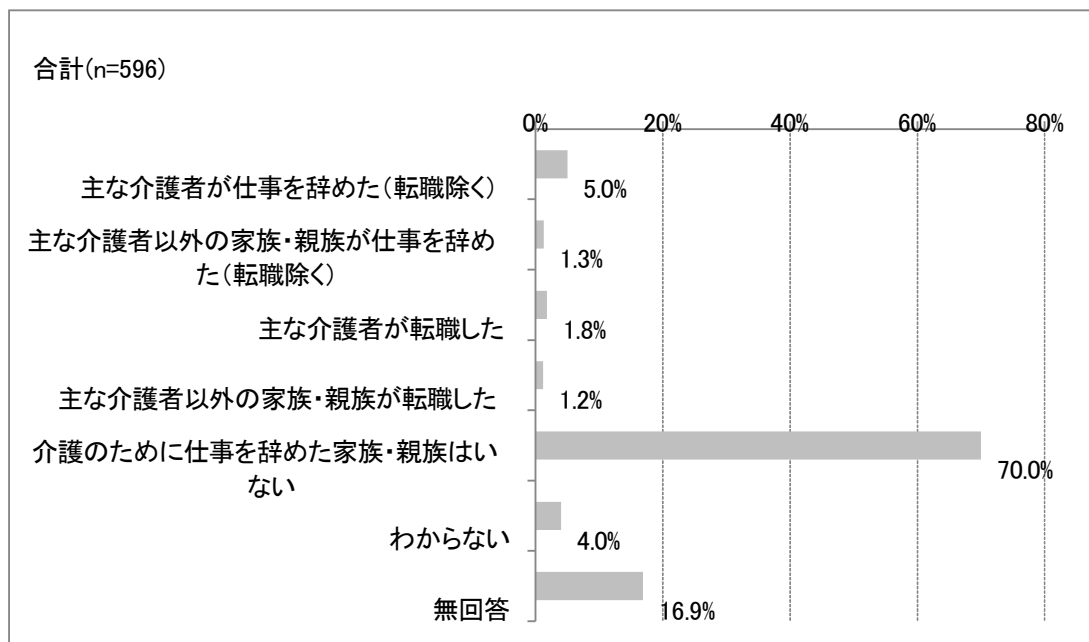
#### ④主な介護者の年齢

50代以上の世代が主に介護を担っている家庭が、87.3%であり、そのうち70代以上の世代が介護を担っている家庭は、33.9%以上となっています。



#### ⑤介護者の過去1年以内の離職・転職の状況（割合）

ひたちなか市では、「主な介護者が仕事を辞めた」との割合が5.0%と全国人口10万人以上30万人未満の市町村の平均5.4%と比較して低くなっています。



⑥介護者の過去1年以内の離職・転職の状況（人数）

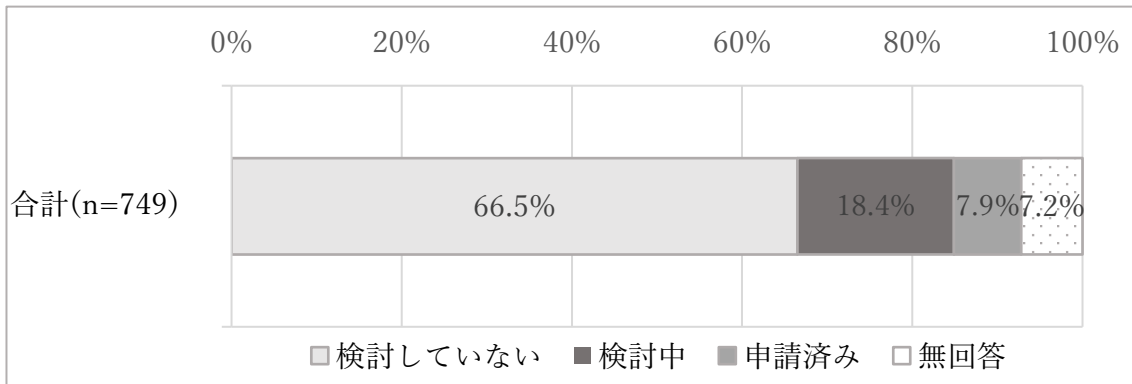
主な介護者の離職のうち、60歳代的人数が多く、転職は50歳代的人数が多くなっています。

離職・転職の状況 介護の頻度	主な介護者		その他家族・親族		計
	離職	転職	離職	転職	
週1日未満	1人	0人	1人	2人	4人
週1～2日ある	2人	1人	0人	1人	4人
週3～4日ある	4人	0人	2人	0人	6人
ほぼ毎日ある	22人	10人	5人	3人	40人
回答なし	1人	0人	0人	1人	2人
計	30人	11人	8人	7人	56人

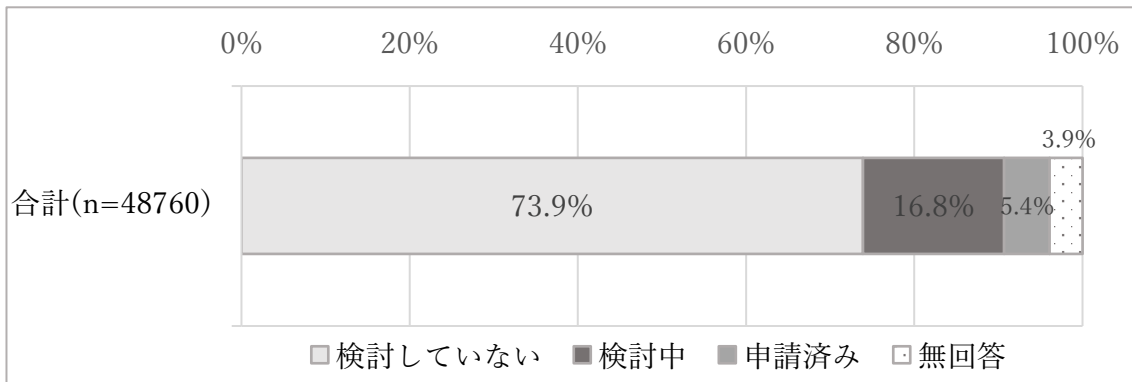
	離職	転職
30歳代	0人	1人
40歳代	2人	3人
50歳代	6人	5人
60歳代	15人	2人
70歳代	4人	0人
80歳代以上	3人	0人

⑦調査時点での施設への入所・入居の検討状況について

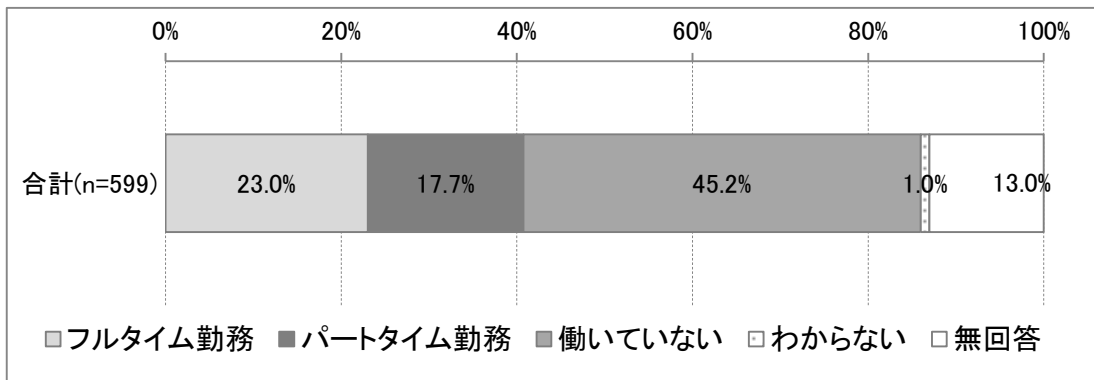
ひたちなか市では、全国人口 10 万人以上 30 万人未満の市町村との集計と比較して、施設入所・入居を「検討中」「申請済み」の割合は全国に比べて多くなっています。



●参考 全国人口 10 万人以上 30 万人未満の市町村

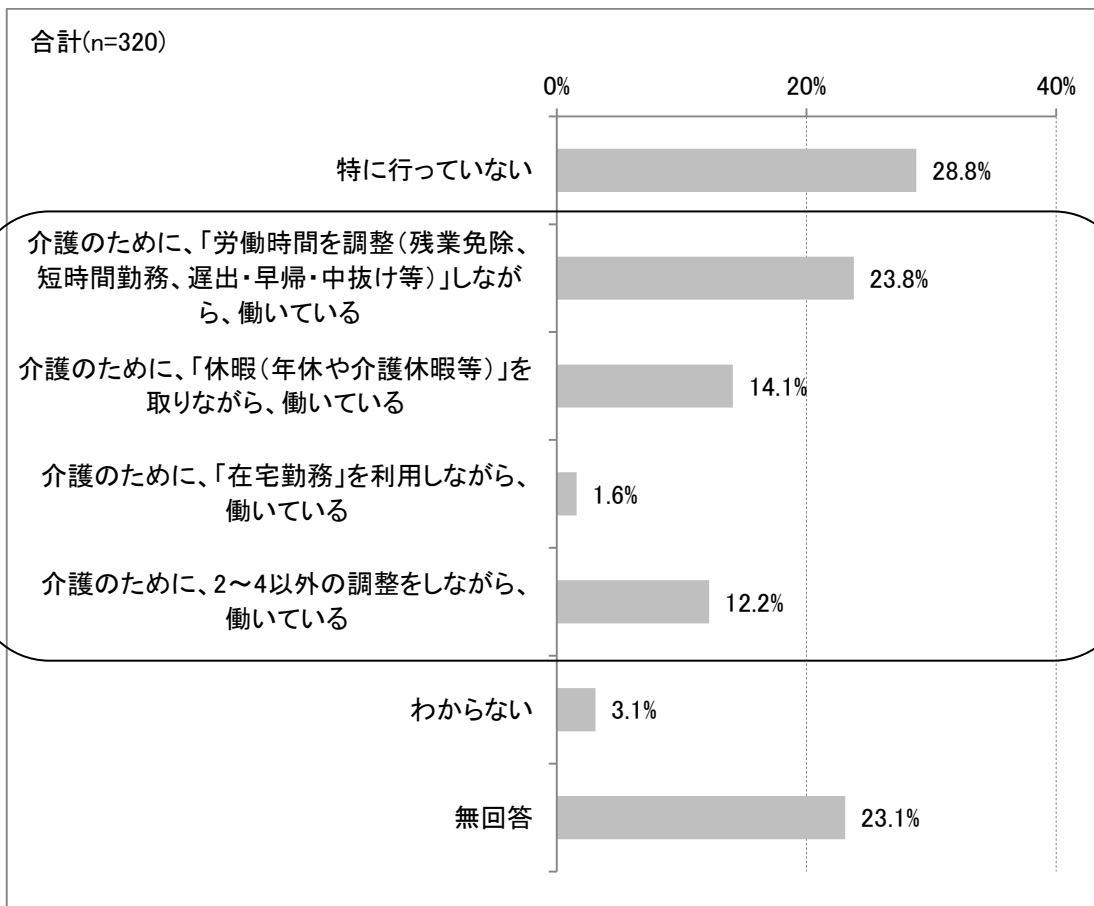


⑧主な介護者の勤務形態



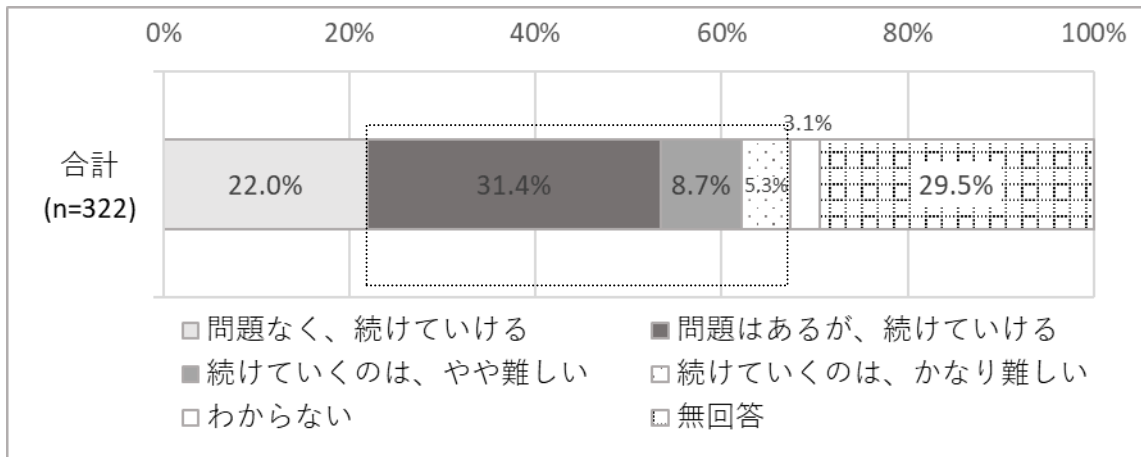
⑨主な介護者が介護をするにあたっての働き方の調整（複数回答）

就労している介護者の約5割の方が、介護をするにあたって、下記のとおり働き方を調整しています。

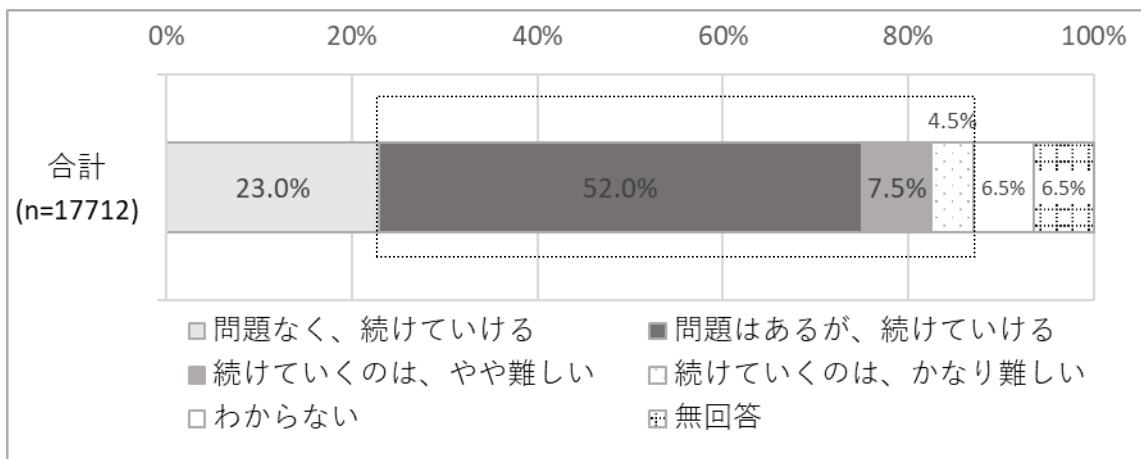


⑩介護者の就労の継続可否に係る意識

ひたちなか市では、全国人口 10 万人以上 30 万人未満の市町村との集計と比較して、介護者の就労に関して「問題なく、続けていける」の割合はほぼ同じですが、就労している介護者の約 45%が就労の継続について問題意識を持っています。

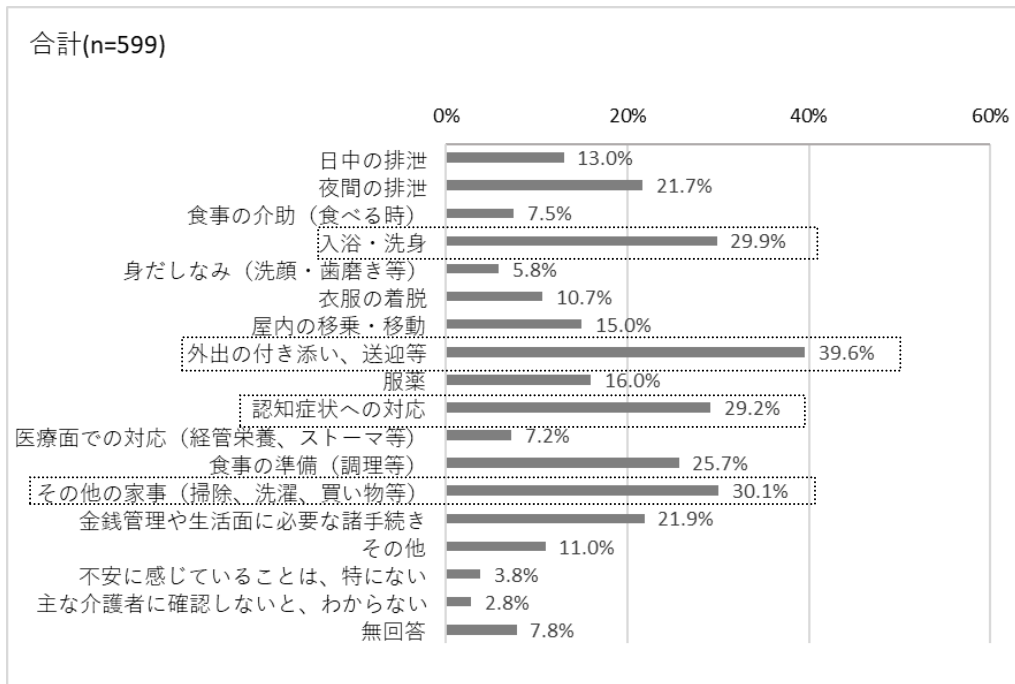


●参考 全国人口 10 万人以上 30 万人未満の市町村集計



①在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

主な介護者が不安に感じる介護は、「外出への付き添い、送迎等」が39.6%で最も多くなっています。次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「入浴・洗身」，「認知症状への対応」となっています。全国人口10万人以上30万人未満の市町村集計と比較すると、ひたちなか市では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」について不安に感じる介護者が多くなっています。



●参考 全国人口10万人以上30万人未満の市町村集計

